

## 肝機能(血液検査)②

AST (GOT)	
意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>肝細胞での障害の有無をみる逸脱酵素</li> <li>心筋や骨格筋、脳、腎、赤血球にも存在する</li> <li>一般的にALTとセットで測定し、診断も両者の値より行う</li> </ul>
基準範囲*	10~35 U/L (JSCC標準化対応法)
異常値で疑う疾患	劇症肝炎、肝硬変、薬剤性肝障害、心筋梗塞、筋ジストロフィー症、溶血性疾患、閉塞性黄疸など
服薬指導に活かせるポイントなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの肝疾患でALT &gt; ASTとなるが、アルコール性肝炎、肝硬変、肝癌などではAST &gt; ALTとなる</li> <li>急性のAST、ALT上昇は心筋梗塞の疑いがあるため早急な対処が必要</li> <li>赤血球にも多く含まれるため、採血や検体取り扱い時に溶血が起こると赤血球よりASTが逸脱し、高値を示すことがある</li> <li>スポーツ(筋肉トレーニング)で上昇することがある</li> <li>透析患者では、一般的にAST、ALTが低値を示す</li> <li>肝障害を起こす確率が高い薬剤の投与開始時には、ASTとALTの変動に注意する</li> </ul>

AST : アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ  
 GOT : グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ

\*引用 : 芝紀代子 編集「臨床検査技師 イエローノート 臨床編 2nd edition」メジカルビュー社発行